高齢者大学文芸部　8月詠草

孟蘭盆の庭に真白き百合匂ふみ霊迎へしおだしき朝　山下　菊代
盆帰りとて待つことはいと楽しけれ送りしあとのまた独りはも　梅野カオリ
子の電話今日あたりはと待ちおれど雨音しげき梅雨の夕暮　宮本サチ子
牛乳ビンのふれ合ふ音に目を覚ます今日一日のわれの始まる　山田　弘子
雨待ちて馬鈴薯植ゑし朝の畑名知らぬ鳥の甲高に鳴く　山城　雅子
罪もなき人ら殺むる自爆テロまたも流るる朝のニュースに　中村トメ子
稲妻に雷鳴りわたる空中に煩悩ひとつ放り投げむか　岡本　トシ
取り入れし胡麻を炒りゐて老いの身も香に包まるるこよなき夕　岩木タエ子
芝生の草取れど取れども又生えてこの夏われの闘ひ盡きず　佐々木佐江子
支えられ支えて過ごす二人居の庭のすずめよもう日は暮るる　中原　光子

万句の里俳句会　8月句会

老い捨てて子等と花火に興じけり　宮本　雅子
施餓鬼会の暮色促す鐘の音　冨田　幸子
郷里や流れる水はすでに秋　茨木　幸子
古垣に我がもの顔の縷紅草　緒方　玲
瀬の音の暮色いざなふ月見草　松本　久子
釣果得てより新涼の風となる　中路　郁子
廃墟にはカンナの赤い風ばかり　高木　陽子
いづこより来し人波や花火の夜　鋤本　トミ
風が風追いて波打つ芒原　田中ひさ子
故郷に昔の儘の木槿垣　稲田　羚子
夕霧に色変えてゆく小国富士　梅田　昭子
秋の蝉重さ失ふまで鳴いて　光本とよいち

肥後狂句桜会　8月例会

爺ちゃんの　孫だけにゃモッコスで無ァ　光堀　善教
戻り道　犬は来た道覚えとる　安武　二山
爺ちゃんの　村ん事ッなら生き字引　小川　繁美
クラス会　禿げとる方が生徒かい　田尻　浩風
耐えきれん　時には肉も食おごたる　窪田　明徳
クラス会　恩師は嬉し泣きだった　高倉　新米
戻り道　磁石の如たる縄のれん　狩野　本六
クラス会　高嶺の花はまだ一人　藤野　清子
戻り道　リュックの中は山野草　東　哲哉
クラス会　とうと解散せなん歳　田中　孝幸
戻り道　待ち伏せしとるいじめっ子　芹川のり子
爺ちゃんの　お陰で庭にゃ四季の花　須藤　新生

泗水短歌会　8月詠草

舗装路の罅に生えたる駒つなぎ轢れてもなお逞しく伸ぶ　大島　きと
急逝の夫の初盆迎う人にふとも浮かぶはゆりの木の花　長尾はるみ
這い這いの速くなりたる曾孫来て庭は百日紅の花明りする　平嶋きくえ
大阿蘇の自然が紡ぐ音いろかとオカリナ奏ずる「赤とんぼ」きく　古田のぶ子
未だ地球は青きと飛行士告げいたり今日も照る照る真夏の太陽　増田久美子
葉陰道そぞろ歩める湯治場に幟は告ぐる「すず虫まつり」　吉安　永子

せせらぎ俳句会　8月例会

熊蝉の尿の反撃浴びにけり　五丁　義昭
音のみを聞きつつ一人花火の夜　坂本まつえ
ぼうぶらてふ肥後の南瓜の長い首　内村　泊虹
夾竹桃終戦の日も咲きをりし　藤本アツ子
秋立つや木々のかげりも吹く風も　村山　数恵
行水の幼な等の声座敷まで　寺本　和子
少年期を知らずにに老ひて終戦忌　藤本　邦治
厨窓開ければ向日葵笑みかけし　内村　鈴子
姉妹顔にも浴びてシャボン玉　服部　静子
きょうも暑いはやくプールにいきたいな　（小六）渡辺　大寿
木々の中あっちもこっちもせみの声　（小六）渡辺　一史

肥後狂句水笑会　8月例会

ばたつくな　地元の票は握っとる　千　笑
虫のよさ　もうけ話しにゃ直ぐのらす　三　水
大誤算　開放せんが良かったつ　水　光
いらん世話　銭の無か振りしとるだけ　好　茶
てれっと　焦げの匂いで気の付かす　五　女
ばたつくな　今直ぐ浮輪投ぐるけん　美　由
大誤算　女とみたら男ばい　裕
大誤算　当選すると前祝い　美　樹
てれっと　お茶汲む道も分からんと　江　彩
てれっと　しっかりさんとはまとまらん　三　代
ばたつくな　地震保険に加入した　寛　ぺ

七城短歌会　8月詠草

去年今年級友幾人逝きゆきて我には傘寿の祝いが届く　岩崎　清継
真昼の空連れ立ち急ぐ五羽六羽酷暑逃れか急用なるか　岩崎　照代
我が傍え高校の娘がこの音が好きと言い懇ろに米を研ぐかも　高木　精
朝毎に来て掌に染む程の紫紺の茄子をもぐ一・二本　水田紗陽子
落ちやすき実に用心し豆畑の野ほうずきに目を凝らし引く　佐々　重弘
庭隅の彼岸花の花咲きたれば妹の祥月命日近し　岩下ミツエ
枯葉見ゆる里芋畑が雨欲しと車窓より見る吾にも告ぐる　木下　陽子
一人居の侘しき時ぞ縁側の真紅のサボテンの辺に来て坐る　堀　甲子
帰り道一番星を見つけたり外輪山の頂き近く　松岡ミチエ

旭志文芸俳句会　8月詠草

阿蘇よりの一陣の風大夕立　芹川のり子
土手の萩に今日の夕残りの夕茜　出田みとり
草刈りて不旱碑露わ梅雨晴間　中尾ヨシコ
炎暑に耐えて茶を摘む孫等に謝す　中山　栄子
合志川雨降らずとも田植済み　郷　ミヤ子
暑中見舞夫の死知らぬ義友より来　東　芳子
田植え済ませ馬を洗ひし川今も　芹川　蓉子
拝殿の絵馬新しく夏神楽　岩根サチ子
溜池を渡る鵜声も鋭し　工藤　房子
争いもなくて一村田植すむ　水谷　ミネ
病葉の黄の葉手もとに落ちにけり　岩根　良子
日和好し大玉西瓜冷やしおく　東　由香